

■■■ KFC理事からの新年のご挨拶 ■■■

セヘ ポンマニ パドゥプシヨ (新年、たくさん福をうけとってください)。

昨年KFCは、神戸市があらたに設立した「ふたば国際プラザ」の事業運営受託を6月からはじめました。古くからの外国人多住地域である長田区に出来た施設に於いて、外国人市民と日本人市民が相互理解を深めながらともに生きていく事業を今年はより発展させていきたいと思っています。

また昨年3月に神戸に移住したミャンマー第三国定住難民5家族への支援も年を越し関係機関と連携しできれば新たな事業に取り組みたいと考えています。去年は、1家族に新たな命が誕生するというめでたいこともありました。生まれた赤ちゃんを見て日本に来たことが、家族にも社会にも幸せなことになれるよう尽力したいと思います。

難民家族の子どもは、学習における課題はありますが新たな社会で適応力の高さをたくさん見せてくれます。しかし大人はなかなか期待と現実のギャップに戸惑っているようにも見えます。そんな状況を少しでも改善するサポートがKFCとしてできればと考えます。

KFCは、そのほかの事業も税制の改正や関連機関の増加など運営する施設も事業も増え理事長として把握できないことが日々増えています。

少し開き直りですが、今年は発想を変えてKFCは理事長が事業を細かく把握できなくても立派な仕事ができるぐらい成長したといえる年にしたいと思っています。その為にはもっと自分を律することがもちろん前提としてです。

今年も多くの方の助力が得られればと思っております。よろしく申し上げます。

(理事長 金 宣 吉)

KFC会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。セヘ ポク マ〜ニ パドゥセヨ!!

去年は韓日関係が最悪でした。両国民・市民にとって「百害あって一利なし」だと思えます。今年はどう底から抜け出して、関係改善に向かうと信じております。KFCでは、「ふたば国際プラザ」や「ミャンマー難民サポート」などの新規事業がスタートし、今年も大忙しになると思います。色々と大変な現場でがんばっているスタッフのみなさん、支えて下さるサポーターのみなさまに心から感謝します。今年も共に元気に歩んでいきましょう。

(副理事長・大韓国民団兵庫県本部団長 李 圭 燮)

明けまして、おめでとうございます。

去年は、特定技能の制度が始まり、日本社会が公にアジアの労働者の受け入れに踏み出す年となりました。また、徴用工裁判の判決から日韓関係が悪化し、歴史認識の問題が問われています。こうした中、高校の社会の教師として、外国人労働者の人権や植民地の歴史、またKFCも支援している難民に関する教育に力を入れています。教え子の高校生がKFCの学習支援や子ども食堂にボランティアに来ているのは、嬉しいことです。今年も共にがんばりましょう。

(理事・灘中・高等学校教員

片田 孫 朝日)

明けましておめでとうございます。4年前に始めた合気道も、多忙ながらも楽しくお稽古を続けて初段に昇段しました。相手と対峙せず、かといって独りよがりにならず、呼吸を合わせて円を描

くように技を繰り出す…という境地にはまだまだ至りませんが、惑わされない心、ブレない軸を作る糧にはなっている気がします。今年も年女。さらに忙しくなりそうですが、だからこそお稽古は続けたいです。今年もよろしくお願いいたします。

(理事・甲南女子大学教授 野崎 志帆)

2019年は「失われた30年」を経て、日本社会のさまざまな分野での「衰退」「劣化」が可視化された1年でした。現在の50～60歳代の世代は、子供たちに大きな負債を背負わせてしまった世代として、歴史の審判にさらされることになると思います。問題の根は深く、私たちは近代日本の「成功体験」とされてきたものが本当にそうだったのか、1945年、あるいは1868年まで遡って検証する必要があると思います。2020年度もよろしくお願い申し上げます。

(理事・神戸大学教授 樋口 大祐)

今年70歳になります。一つの節目として、日々の生活に自覚を持ちながら、次のチャレンジをしたいと思っています

その一) スマホに切り替えて、スマホをつけるようになりたいです。

その二) ベトナム語にチャレンジしたいと思っています

その三) 医師会から「医師による遠隔での死亡診断をサポートする看護師を対象とする研修会」を申し込みました。受講が決定すれば研修会がスタートします。

(理事・訪問看護テーションはれ所長 山根 香代子)

あけましておめでとうございます。昨年6月に「神戸市外国人に対する不当な差別の解消と多文化共生社会の実現に関する条例」が制定され、本年4月1日から施行されることになりました。2016年に成立したいわゆるヘイトスピーチ解消法の条例版です。ヘイトスピーチ解消に向けた条例は大阪市、東京都などわずかであり、その意味で市民とともにヘイトスピーチをなくす条例制定に各自治体が取り組むきっかけになる意義は大きいと思います。昨年の12月に川崎市で「差別のない人権尊重のまちづくり条例」が成立し、罰則付の内容となっています。神戸市の条例も今後さらなるヘイトスピーチ解消に向けた中身のあるものにしていかないとはいけません。これからも定住外国人の権利擁護のために、KFCの活動に貢献できるようがんばります。今年もよろしくお願いいたします。

(理事・弁護士 吉井 正明)

■■■ ハナ介護サービス ■■■

2018年3月から、KFCで勤務するようになり、早くも1年半少し経ちました。前任者の退職により業務の引継ぎを経て、居宅介護支援事業専任ケアマネに着任いたしました。ケアマネ業務のみならず、業務遂行にあたり如何に、多文化共生というこれまでの社会人経験の中には、なかった新しい概念の理解を現実的に、直面して考えさせられる現状と向い合い、日々の業務と並行して遂行し続ける毎日です。

さて、利用者さんの現状は、在日コリアン26名・在日ベトナム人11名・華僑2名に日本人9名と、以前より、若干日本人高齢者の増加は見られるものの、事業対象としては80%以上が、外国人高齢者ですので、これは他の居宅とは大きな相違であると思います。これに対し、法人としても、母語ができるスタッフを配置する等、文化的背景に考慮した対応をしていますが、約1年利用者さんの居宅を訪問させていただいた限りでは、これまでの自己が考えていた、居住歴・職歴・教

育・交流関係、差別体験・健康、医療、収入・レクリエーション等、そして、行政の福祉サービス(介護保険制度)についての認識等に、従来通り、という基本概念・常識的な考え方はつくづく通用しないものであるということ、また自身の知識幅がいかに狭かったかということ、痛感させられる毎日です。

この中でも、つかみえたことは、同じ地域・時代に生きて行くという事の難しさ、共生・協調・同調・共感等言葉では言い表せない、何かしら相通じるに、同じ人として向かうところ、たとえ不自由な部分や経済的不利等々があっても、健康で元気に毎日心に潤いを感じて生活していけるよう、いかに居宅として、福祉行政サービスやはたまた地域社会資源と組み合わせ、これをフォローしていくことが実行できるか。

これにプラス、如何に利用者さんの持つ固有の文化的背景や個人の考え方等に、マッチしたコミュニケーション又は手法にて理解し得るように伝えられるか。そしてこれらを実現していき、日々少しずつ前に進めて行けるか、ここら辺の手法を暗中模索していかなければならないということです。これに尽きると思います。

全般的には、居宅の利用者さんの数も、一時的には、1割程度減少はいたしました。紹介等により徐々に元に戻っている状況です。

どうぞこれからも引き続き、KFCの高齢者支援・居宅介護支援事業にご理解とご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

(介護支援専門員 酒井 政行)

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆ふたば学舎「まちの文化祭」に参加して

11月24日(日)ふたば学舎で第10回「まちの文化祭」が行われました。今回KFC日本語プロジェクトチームが手作りのベトナムのサンドイッチ「バインミー」、台湾の紅茶卵「茶葉蛋」と紅茶、コーヒーを屋台で販売しました。当日は雨が予想されていましたが、まずまずのお天気。朝8時からテントの飾り付け、「亜州食堂」の看板やメニューの表示、前日に半日掛けて調理した品物を並べてスタンバイしました。学習者の方々は奥さんや子供たちを連れて来たり、ベトナムの帽子をかぶったりして賑やかでエキゾチックな雰囲気も。心配していた売れ行きも学習者やその奥さんの奮闘のお陰でお昼過ぎには全て完売することが出来ました。思えば夏に参加するかどうかを学習者たちに尋ねて以来、何を売るか、どう作るか、値段は、幾つ用意かなど、儲からなくても赤字が出ない様に何度もシュミレーションをしながらミーティングをしてきました。学習者の方々は企画から製作、宣伝、販売までを通して普段の教科書学習とは違った経験が得られたと思います。また学習者間、支援者との距離もぐっと縮まった感じがします。一方、来場者のなかには「へえ～日本語を勉強している人たちが作って売っているんだ」と言って買ってくれる人も何人かいました。地域、文化交流は小さな積み重ねが大事な事なんだと改めて思いました。

(支援者 山本 和彦)

今回の文化祭は無事に成功したことは本当に支援者皆様のおかげであり、まず販売料理の選定から、料理方法、必要な物の調達、原価計算、宣伝企画、前日の調理、当日の販売まで、様々な経験をさせてもらった。文化祭の為に三ヶ月間前から計画を始め、週一回の授業時間を利用し、計画を進めていった。何より大切な経験だと思う。

支援の先生達はできる限り、私たちに任せて後ろでサポートしてくれた。しかし、やはり外国人

と日本人はもちろん文化の差があるし、物事に対してやり方も若干違うところもあると思う。具体的に言うと台湾は「英雄主義」と「結果重視」であり、この場ですぐ決められることやこう行ったら良い結果になるなら、担当者や責任者一人の判断で決断することが普通だ。逆に、日本の場合は「集団主義」と「プロセス重視」ではないかと思う。物事を決める前に必ず全員に情報を共有し、皆の意見を聴きながら、進めて行く。物事をじっくり考えて決定することがとても慎重だ。

時々、自分の主張が強すぎる場合もあるかもしれないが、揉めているような状況で、私たち台湾メンバーの意見をどうやって日本の支援者達に受け入れてもらうかは課題だ。自分も未熟のところがあり、こういったやり取りの間で学びながら、他方からの意見をまとめて実行し、全ての人の望みを叶えることはさすがに無理であるが、多数の人が納得してくれれば、良いと思う。バランスを取ることが大事だ。

最後は本当に皆様のおかげで、いろいろ応援してくださって、予約販売・当日販売もたくさん購入してくださった、売上の3割以上はほぼ皆様からだ。今度の文化祭は、絶対次の学習者達に体験させたいと思う。

(日曜日学習者 蕭(しょう) 仲修)

◆日本に住んでいる間にどうやって日本語が上手に勉強できるか？

私の名前はLE DUC TIENです。25歳です。職業は金型を設計することです。日本に来てもう二年半になりました。現在神戸市の新長田に住んでいます。2年間くらい、KFCで日本語を勉強しています。

日本語は世界の中でも難しい言語だと思います。"どうやって日本語が上手になれるのか、どうすれば日本語が話せるようになるのか"いつも皆さんの頭の中にはこんな言葉が出てきますよね。答えは誰でも知っていると思います"毎日勉強しかありません"。でも、日本語が上手になるのはそんなに簡単ではないでしょう。毎日忙しい、仕事が大変、日本の生活のリズムは早過ぎる、色々な理由でだんだん勉強できなくなることもあるでしょう。特に結婚していて子供が出来ている方はものすごく大変だと思っています。でも、日本に住んでいる間に、出来れば日本語を勉強してください。そうしないと寂しいと思います。なぜかというと、言葉が通じないと友達が出来なくなり、だんだん自分の世界が小さくなりますよ。それは皆さん知っていることでしょう。では、どうすればいいか考えて行きましょう。最初にどうして日本に来たのか、日本に来る前に自分の目標は何だったかをもう一度しっかり考えてみてください。お金のためとか、日本の技術を学ぶためとか、日本の紅葉と花見をしたいためとか色々な理由が出てきますね。じゃ、今、自分の目的は達成出来ていますか。私は日本

に来て毎日少しずつ頑張るようにしていますが、まだ出来ていません。どうしてかというと、日本の会社に入って先輩に苛められたり、日本の生活に慣れなかつたりするからです。それは一般的な理由だと今思っています。だからこそ、どんなに困っても毎日少しずつ頑張って日本語を勉強するようにしてください。

次に、勉強方法を考えてみましょう。毎日、日本語の勉強する時間は短いでしょう。ですが、自分の時間を大事にしてください。友達が遊んでいる時に自分は勉強してください。最初の二年間に自分の頭の中でそういうようにしてください。そうじゃないと、きっと何もならないですよ。毎日、漢字を勉強しながら、テレビをみたりラジオを聞いたりしてください。いつも聞いてください。慣れるまで聞いてください。必死で日本語を聞いてください。次に日本人とよく話してく

ださい。会社の同僚ではなく、日本人の友達とか近所の人と話してください。チャンスがあれば話をしてください、何でもいいです。恥ずかしいとか面倒とかも思わずに勇気を出して声をかけてください。話が出来たら今度は本や新聞を読んでください。ここまで行けば皆さんの世界が広がるようになります。最初の頃の雲と雨の日がなくなって晴れの日に変わります。この状態になったら、日本のことは本当に綺麗だと自分自身でも思えるようになります。つまり、毎日少しずつちゃんと勉強を続けてください。いつか晴れるようになるでしょう。

(2019-12日本の秋)

(LE DUC TIEN)

■■■ K F C 外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆子どもの居場所づくり

私はこれまで1年以上、K F Cのインターンに参加していますが、海外にルーツを持つ子どもたちと交流することで新たな発見に恵まれるうえ、自分自身を見つめ直す良い機会にもなっています。

私自身、中国と日本のダブルですが、小中学校は華僑学校に通っていたため、文化の違いなどの苦勞は何もありませんでした。しかし、高校進学の際、普通の公立高校に進学したため、周りから変な目で見られたくないという思いで、無意識に中国にルーツがあるということを隠して、日本人に同化するよう努めるようになりました。しかし大学入学後、多文化共生を専攻し、異文化理解の大切さについて学んでいく中で、自分の居場所を見つけることができ、自分のルーツが「隠したいこと」ではなく、「誇らしいこと」に変わっていきました。従って、私と似ている境遇の子どもたちに、自分たちの居場所を見つけてもらい、自分たちのルーツを自慢できることとして認識してほしいという気持ちで、活動に取り組んでいます。

K F Cで活動を進める中で、今年度は受験生が多いということから、「高校進学の難しさ」をととても実感しています。それは多くの子どもたちが高校受験とはどういう意味か、どうすれば良いかということをややふやにしたまま受験に向かっていていると感じたからです。確かに兵庫県には来日3年以内の子どもたちが受けることのできる「特別枠」という入試制度がありますが、多くの子どもたちがその特別枠の存在を知らないし、たとえ知っていても、特別枠に必ず入れると思ってしまう、私立など他の選択肢をおろそかにしてしまう傾向があります。しかし、K F Cではスタッフをはじめ多くの方が、子どもたちの進路相談に乗り、正しい進路の情報を教えています。高校に進学することで新たな人と出会い、様々な価値観を学ぶことは、新たな自分の居場所を見つけるきっかけになるため、K F Cに通っている子どもたちが悔いのない進路選択ができるよう、今後精一杯サポートしていきたいと思います。

このことは私の大学での活動ともつながります。私は大学ではソーシャルメディア研究会という団体に所属しており、関西をはじめ、全国各地で出前授業やワークショップを行い、情報モラルの啓発活動を行っています。その活動の中で今の子どもたちはスマホの中の世界を心の拠り所にしていて感じています。特にK F Cに通っている子どもたちは学校で居場所がなく、家族の人たちが仕事で忙しいため、より一層スマホの世界が拠り所になっているように思います。K F Cは外国にルーツを持つマイノリティの子どもがマジョリティとなる居場所であるうえ、全てを受け入れる環境づくりが子どもたちの素敵な居場所になっていると思うので、今後私自身が子どもたちに寄り添って活動していきたいと考えています。(兵庫県立大学環境人間学部3年生 渡辺鈴)

■■■ ハナの会 ■■■

◆晩秋の日に…

小春日和に恵まれた11月23日、デイサービスハナの会に可愛いお客様がきてくれました。モンゴルの民族衣装に身を包み馬頭琴を携えた先生に導かれ、赤やピンク、青の民族衣装に小さな両手でピアノを持った8人の子どもたちと、白鳥の姿を形どった優美な弦楽器を抱えた少女です。

今日は、デイサービスハナの会とモンゴル語教室の交流の日です。モンゴルの曲「大地」、モンゴルの「あいうえおの歌」（英語のA B Cの歌のようなものだとか）や日本の「赤とんぼ」などを演奏してくれました。デイのご利用者は勿論のこと、来てくださった子どもたちのご両親、モンゴル語教室の皆様も、子どもたちの演奏に笑顔で拍手です。先生の独奏はのびやかで壮大な景色を思い描かせてくれ、初めて聴いた馬頭琴の音色に魅せられました。

そして、ご利用者がお礼に歌と踊りで「アリラン」を披露してくださり、最後はみんなで「ふるさと」を合唱しました。日頃はない子どもたちとの語らいやドミノゲームで、おやつタイムも賑やかで、楽しい時間となりました。

帰り際にお辞儀と何度も手を振り挨拶をしてくれた子どもたちの姿が印象的でした。また、いつでも遊びに来てくださいね。ご利用者と共にお待ちしています。モンゴル語教室の皆様、バヤルラー（ありがとう）。
(後藤 なる美)

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆まちの文化祭の感想

老驥伏枥，志在千里(老いた駿馬は馬小屋に伏すも志は千里にあり)

真っ赤な紅葉、黄色の銀杏の葉は太陽の日差しで輝く季節になりました。晩秋を送り、初冬を迎える中第10回「まちの文化祭」が賑やかに開催されました。初冬の天気は快晴で、早朝の気温は低いですが、昼間は暖かくて過ごしやすかったです。ふたば学舎の広場はたくさん屋台があり、美味しそうな食べ物やかわいい小物など沢山ありました。会場内は大勢な人が賑わう一方、私達帰国者は舞台出演を待機していました。

K F C新長田帰国者交流会は出番の前に日本語教室に集まり、中国の伝統的な大衆舞踊「秧歌」を披露する準備をしました。出演者平均年齢は70才ぐらいですが、みんな楽しそうに話しあったり笑ったりしながら出演服を着たり、個々の扇子を用意したりしていました。昔中国で春節を過ごしたころに戻ったように感じ、とても嬉しかったです。

11時15分の出番が来ました。迫力満点のどらや太鼓を打ち鳴らし始め、秧歌を踊りながらみんなが登場してきました。鮮やかな衣装を身に纏い、右手で扇子、左手で帯を持ち、上下動かしながら踊りました。まるで孔雀が尾羽を広げるように美しかったです。舞台の上では中国民族楽器を一斉に演奏し、舞台の下ではみんな楽しく踊り続けました。誰が彼らはもう70才を過ぎた高齢者だと思ってしまうのでしょうか。まるで若者のように生き生きして、老いに負けたくないという気概が会場の観客に伝わったと思います。まさに「老驥伏枥，志在千里」です。年をとっても大きな抱負を抱いてもいいじゃないですか！

中国伝統の秧歌踊りは海を渡り、日本で披露されることで、帰国者は日常生活の中でより楽しく過ごすことができました。私達の晩年において、このような美しい思い出が増えてほしいと願っています。そして、高齢の帰国者のみんなが若々しく幸せに毎日を過ごせるように。

(李 賀)

■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護八ナ■■■

◆合同運動会

11月22日(金)に、グループホームと小規模多機能の合同で運動会を行いました。毎回の事ながら行き当たりばったりな所はありましたが、グループホーム利用者の全員と小規模の利用者さん数名が参加する事が出来ました。同じ建物内とはいえ1Fへの移動は時間を要しますが、そこはハナスタッフのチームワークの力を発揮しスムーズに移動し、いつもとはちょっとだけ違う体操をスタッフ・利用者さんの全員で行いスタートしました。

今回はフロア対抗戦ではなく、着席した場所で2チームに分ける事にしました。運動会と言えば玉入れ。かごに向かって皆さん必死に?投げておられました。普段は腕がなかなか伸びない方もしっかりし腕を伸ばしていました。やはり年を取っても勝負に対する意欲はすごい!借り物競争では、紙に書かれた文字をみて探す。探して目的の場所まで移動するといった一同に沢山の事を行う訳ですが、「あっちだよ」「ここにあるよ」と今度は利用者さんのチームワークを発揮しておられました。ドーナツ食い競争、それはそれは皆さん必死。大きな口を開けて小さなドーナツを取る(奪う)。取れたドーナツはその場でパクリ。さぞ美味しかった事でしょう。

最後の表彰式では、スタッフ手作りのメダルの授与。手作り感満載で市販のメダルよりもぬくもりを感じたのはきっと私だけではないと思います。(星野 敬子)

■■■ ふたば国際プラザ ■■■

◆ふたば国際プラザを半年運営して

ふたば国際プラザが6月にオープンしてから、半年が経過しました。日本語教室などのKFCの自主事業に加え、8月の多文化お化け屋敷、11月の多文化ひろめ隊♪(在日外国人ゲストティーチャーの養成講座や児童館への派遣)をはじめ、毎月のように新しい事業を実施してきました。11月にはふたば学舎のまちの文化祭にもパネル展示やフリースペースの開放という形で参加し、月間1,000名を越える来館規模となり活気が出てきました。

半年間運営して感じたふたば国際プラザの特色をまとめてみたいと思います。まず、来場者の多様性です。日本語教室では子ども連れのお母さんもいらっしゃれば、仕事帰りに寄られる会社員の方もおられます。お化け屋敷のようなイベントでは近隣の子もたちが来ますし、児童館派遣事業では留学生も来ます。また、中国残留邦人帰国者交流会では、70~80代の方々も大勢来られます。老若男女を問わず出入りがあるのが特色です。

次に、地域社会と協力させて頂いている点です。茶道教室のように婦人会のご協力を得て行ったものもあれば、防災訓練のように区役所のイベントにプラザの来館者と共に参加したものもあります。来館者の方々が地域の人々と一緒に活動しコミュニケーションをとることで、日頃安心して暮らし能力を各方面で発揮して頂くことにつながればと思います。

また、いろいろなタイプの事業を行える点があります。プロジェクターなどの基本的な事務設備に加え、大型スクリーン、スピーカーなどが設置されているため、会議やプレゼン、映画の観賞などが行えます。また、スペースを活かして簡単な体操や卓球も行えます。いろいろな使い方の可能性があると思うので、今後も開拓していきたいと思っています。

とはいえ、全体の稼働率(利用率)はまだ60~70%くらいかなという感触です。休館日(月)以外、10:00-20:30と長時間開館していますが(火・日・祝は17:00まで)、平日の午後や平日・休日の夜間、祝日などは利用予約が入っていないことも多いです。また会議スペースの利用予定が入っていても、フリースペースで勉強や打ち合わせをすることはできるので気軽に立ち寄ってほしいです(書籍やWi-Fiがあります)。ふたば国際プラザカレンダー<<<https://social-b.net/fic/calendar/>>>もご参照ください。

今後の展開として、地域の方々のニーズを見ながら新しいことに挑戦していきたいです。例えば、日本語教室はありますが外国語を学べる講座がないので、英語や中国語、ベトナム語などの教室や勉強会をやりたいと思っています。皆様のアドバイスを伺いながら、多くの方の役に立つ事業を打ち出していきたいです。今後も宜しくお願い致します。（大石 貴之）

■■■ 今後の予定 ■■■

- ◆ 今後の予定
- ふたば国際プラザ
日本語ボランティア養成講座 続編
「日本語学習者の『わたしの物語』をもとにした活動の紹介」
2020年1月26日(日)14:00~16:00
- 「世界の子育て~ベトナムから日本に来て~」
2020年1月18日(土)15:30~17:30
- 「ええとこながた~多文化を楽しもう~」
2020年2月24日(月・祝)14:00~16:00
- 縁会
2020年1月10日(金)18:30~20:30 韓国料理
2020年2月14日(金)18:30~20:30
ヘルシーカフェ
アスタくにつか5番館地下飲食街スペース
- 就学前の子どものプレスクール事業
2020年1月11日~3月28日(土)10:30-12:00
2月15日、3月14日を除く毎週土曜日